科目名	憲法（統治）A　　Costitutional Law (Government) A						
科目担当者	青木 誠弘　　AOKI Nobuhiro						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	現在の社会だけを見ると、国の在り方、つまり国というものがどういうものなのかは既に決まっているように見える。しかし、長い歴史の流れで見てみれば、国の在り方は決して何か一つに決まっているものではなく、人類が試行錯誤を通じて構想してきたものであり、現時点でも決して理想形に至っているわけではないということが分かる。こうした「国の在り方」の流れを、立憲主義の成立経緯及び内容と日本国憲法の成立経緯を通じて学習する。						
授業の到達目標	①基本的な概念や用語を理解し、その説明ができるようになること。 ②見解の対立がある事項について、問題の所在や既存の学説の内容を理解すること。 ③憲法上の制度やその実際の運用について、何故そのようになっているのかを理解し、説明できるようになること。 ④以上のことについて、自ら疑問点を見つけ、考察できるようになること。						
授業計画・内容	1	イントロダクション					
	2	国家と法、憲法の意義等					
	3	近代立憲主義の成立経緯とその主な内容					
	4	権力分立と主権					
	5	イギリスとドイツの立憲主義					
	6	立憲主義の変容					
	7	大日本帝国憲法の特徴					
	8	日本国憲法制定の経緯					
	9	日本国憲法成立の法理					
	10	前文					
	11	国民主権と象徴天皇制					
	12	天皇の権能と国事行為					
	13	憲法９条					
	14	戦力不保持と自衛権・自衛隊					
	15	全体のまとめ					
授業外学修 (事前学修)	・毎週、事前に配布資料がアップロードされている場合、読んでおくこと（1時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	・配布資料や教科書の該当箇所を読み返すこと（1時間程度）。 ・授業に現れた論点に対して、自分なりの考察を加えること（2時間程度）。						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法			評価比率		到達目標との対応	
	・期末試験			100%		①、②、③、④	
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	君塚正臣『大学生のための憲法』法律文化社　第２版 ※六法を必ず用意すること。有斐閣のポケット六法や判例六法等、小さいもので構わない。						
参考文献	授業中に提示する。						
その他	初回の授業時に出席等のルールの詳細について伝えるので、必ず出席すること。 3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となるので、注意すること。また、出欠の確認時に教室にいなかった者や確認後に教室から抜け出した者は欠席となるので、注意すること。						